

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年10月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670600172
法人名	有限会社 ふれあい
事業所名	グループホーム ポンタ
所在地	鹿児島県阿久根市赤瀬川4295番地 (電話) 0996-73-4348
自己評価作成日	平成28年7月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成28年8月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

定期的に家族会を行いご家族との信頼関係を築き、ご家族と共に入所者を支える環境作りをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

[理念について]
「あなたらしさ」を大切に毎日笑顔で楽しく自立した生活を目指し、利用者の尊厳と認知症ケアへの理解を深めながら、利用者の心の声を大切にした人間愛に満ち溢れた理念に基づいて、代表者・管理者をはじめとする全スタッフが深い信頼関係により、家族の一員として、意識づけを図りながら、心のこもった温かい支援を提供している。利用者・家族・職員の関係性が良好で、笑顔が常に施設に溢れることで、施設全体の雰囲気が高く、それにより居心地良く日常生活を過ごせる環境となっている。

[地域について]
地域に根ざした認知症ケアの活動拠点として地区の老人会へのサロン参加や認知症サポーター養成講座の開催、保育園児との世代間交流、介護保険運営委員会やグループホームの連絡協議会への参加による市町村との連携、災害時の避難訓練やAED講習などによる消防署からの指導等、地域密着型サービスとしての役割を十分果たしている。

[ケアについて]
担当職員制をとって、アセスメント、モニタリング、職員間でのカンファレンス、サービス担当者会議、かかりつけ医の意見等をもとに常に現状に即したケアプランを作成している。また、身体拘束をしないケアを提供するため、認知症に対する研修や勉強会にて職員のスキルアップに努めている。看取りの実績はないが、医療スタッフも充実しており、十分対応出来る施設体制である。12年が経過し利用者の重度化に伴い外出頻度や行事参加がやや少なくなっているが、人間愛に満ちた家族的な支援や利用者の余暇の充実に向けて取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	申し送り時に理念を読みあげ、理念に沿ったケアが出来る様に心がけている。	「あなたらしさ」を大切に、笑顔で楽しく自立した生活を目指し、利用者の心の声と1日1回の笑顔をモットーに個人の尊厳を遵守しながら利用者と密接に関わることで、認知症ケアの理解を深めている。理念の復唱や振り返りを行うことで常に理念を意識した支援に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の老人会に参加したり、近隣の保育園児が行事に参加し交流を図っている。	地域の老人会サロンへの参加やみどりがおか保育園児との交流、阿久根市元気度アップポイント事業施設指定を受けて、ボランティアによる踊りや五つ太鼓・三味線等の慰問を積極的に受け入れて地域との交流を図っている。また、認知症サポーター養成講座を通じて、地域福祉づくりの普及・啓発等に協力している。必要に応じて、地域の防災無線による放送を施設内に流し情報共有を図っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	阿久根市元気度アップポイント事業施設指定を受け、ボランティアの受け入れをする事で認知症への理解を深めたいと考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	非常災害時等の対応等内容に応じて消防署に参加を依頼し地域の方と一緒に考えサービスの向上に活かしている。	市役所職員、区長、民生委員、家族代表等が参加して定期的開催されている。事業所の活動や運営状況の報告を中心に、施設環境設備、保健衛生、介護保険の改正時の通達・説明や外部評価の報告等、多岐にわたる意見交換が行われ、必要に応じて業務改善に努めている。非常災害時の避難・誘導について消防署からの指導により、ウッドデッキにスロープを設置する等、迅速な対応が図られている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議や相談等で助言を得たり情報交換を行っている。	運営推進会議の参加や介護保険の申請、グループホーム連絡協議会、代表者が委員を務める介護保険運営委員会の参加、福祉事務所からの生保利用者の紹介等、日頃から市町村との連携を密に図りながら協力関係を構築している。また、阿久根市では、地域包括ケアシステムに向け各事業所との連携を図りながら市独自の活動の構築を図る為、地域支援体制に向けた取り組みも行われている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	内部研修で身体拘束について学び取り組んでいる。玄関、テラスのカギは施錠せず自由に出入りが出来る様にしている。	身体拘束マニュアルや指針のもと、内部研修を実施しながら、身体拘束をしないケアに対する正しい知識・理解を全スタッフが深めている。スピーチロックや玄関の施錠などを行わず、徘徊者については個別に対応し、地域住民や警察・市役所等との連携・協力体制も構築される等、安全確保が図られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で虐待について学び取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>必要時に社協に依頼し権利擁護の研修を行っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>運営者が入所時に行い、家族会時に説明を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>面会時、家族会等で意見を聞いている。</p>	<p>日常生活支援の中での利用者からの意見・要望の抽出や面会及び年3回の家族会等での家族の希望や意向の確認など、常日頃から運営に関する意見や要望を汲み取り、気軽に聞き出せる施設環境づくりに努めている。避難経路の件では砂利道をセメント舗装へ改修して欲しいとの意見も出されて改修するなど、必要に応じた対応を図っている。また、遠方の家族へは、ホーム便りを郵送し、現状報告に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>業務改善会議をしている。</p>	<p>職員会議は随時開催し、通常は朝礼・昼礼・夜間の申し送り、ミニカンファレンスやミーティングを行い、申し送りノートの活用にて共有化を図りながら、常に運営に関する意見の反映に努めており、職員間の信頼関係の深さが伺える。年2回、業務改善会議が開催され、必要に応じて業務の見直しが行われている。個別相談やスキルアップ研修、勤務変更等、あらゆる相談に対応し、常に代表者や管理者はスタッフに対し、穏やかに接することで働きやすく、意見を言いやすい職場環境を提供している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>勤務希望を取り家庭の都合を考慮し、就業しやすい環境を整えている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所内で勉強会を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会の研修会に参加している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談を行い思いを聞けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に面談を行い思いを聞くと共に信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前のケアマネや関係者と情報交換を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力に応じ出来る事をお願いしお互い助け合いながら生活出来る様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いに添えるようにご家族に協力をお願いし共に支え合う環境作りをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族を通じて自宅へ帰宅し馴染みの方との交流を図っている。	利用者の家族や馴染みの深い知人・友人の面会や墓参り、慣れ親しんだ美容室への外出など、大切にしてきた体験や思い出、心の触れ合い等が途切れないよう支援に努めている。行動障害があっても施設を我が家のように認識されている利用者もおられ、盆や正月時も外出されるだけで、施設が落ち着くと短時間で戻って来られる等、利用者にとって事業所が平穏に生活できる場となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事や共有室での座る位置を考慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご家族の相談にのっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いを汲み取りながら申し送りなどで共有するようにしている。ご家族の面会時に話を聞くようにしている。	利用者の思いや意向を少しでも把握し、本人本位のサービスとなるよう、ボディタッチを頻回に行い、安心感を与え、笑顔で穏やかに声かけするなど、利用者に対する人間愛に満ちた支援に努めている。利用者・家族・職員との信頼関係が深いことで、バランスの良いサービス提供が実践されている。意思疎通が困難であっても利用者の真意を家族と共に追い求めながら支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントにおいて本人、ご家族、担当ケアマネから情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	勤務者で情報交換を行いながら申し送り、ケアプランのカンファ時に意見を出し合っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族、主治医からの意見を基にスタッフで評価を行い担当者がケア計画を作成している。	利用者・家族の意向や希望を踏まえた上で、担当職員の個別支援計画の評価やアセスメント、主治医の意見及び各スタッフとのカンファレンスを通じて現状に即したケアプランを作成している。ケアプランは自立支援に向けて詳細で分かりやすく、利用者のニーズが達成出来るよう生活課題やケアについての支援内容が丁寧に説明されている。定期的なモニタリングやサービス担当者会議を行い、状態変化に伴うケアプランの見直しもその都度適切に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日日勤夜勤帯で細かく記入し申し送り、ケアの実践やプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医、他機関に相談しながら行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で区長、民生委員の方に提案助言を頂いている。防災訓練には消防署の指導を受け近隣住民にも参加してもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望があれば入所前のかかりつけ医に職員が同行し受診している。	利用者及び家族の希望に沿った医療機関での受診支援に努めており、眼科や歯科等の他科受診については、家族に協力を頂いて対応している。看護スタッフが充実している為、医療連携についても円滑に図られている。褥瘡や薬剤についての勉強会等、職員のスキルアップにも努めながら、適切な医療を安心・安全に提供出来るよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師が3名おり状態変化時は報告し支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>主治医、医療連携室との関係作りをしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時と入所者の状態変化時にご家族から意向を確認している。</p>	<p>重度化や終末期については、入所前と状態変化時に病態を確認しながら利用者・家族の意向・希望を踏まえた上で、事業所で出来る支援内容など施設の方針を十分に説明し、同意を得た上でかかりつけ医をはじめとする全スタッフが治療方針の共有化を図りながら、重度化やターミナル期に向けて支援に努めている。看取りの実績はないが、勉強会や研修会を開催し、職員個々のレベルアップに努めている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>施設内の勉強会で消防署に依頼し応急手当、心肺蘇生の講習を受けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の指導を受け地域の方にも参加してもらい避難訓練を行っている。</p>	<p>年2回消防署立会いで夜間想定を含めた火災や地震に対する避難訓練を実施している。また、AEDの講習会や非常災害時の対応に関する勉強会を開催したり、自主避難訓練を実施するなど全職員が災害に対する方法を身につけている。スプリンクラーや自動通報装置の消防設備や非常サイレン装置も設置され、緊急時は非常ベルが代表宅へ通報されるシステムも整備され、備蓄も完備されている。地域住民への協力要請も行う事で、より実践に沿った災害訓練を実施している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々職員で話し合い注意している。	利用者個々の尊厳と人権を遵守し、プライバシーや誇り、自尊心を侵害しない声かけや支援を常に心がけている。認知症ケアについての勉強会を通して、利用者に対する正しい支援やスキルを修得し、利用者と深く関わりながら、適切なアセスメントと職員間での意見交換により利用者の意思や意向を可能な限り把握してサービス提供に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	業務優先にならない様に思いを聞けるように働きかけ実現できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出希望など意見を聞き過ぎてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	2月に1回訪問美容室に来てカットしてもらっているが、入所者の希望等で美容室でカット、パーマをする方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを聞きメニューに取り入れている。バイキング等の行事も計画している。	栄養バランスに配慮しながら冷蔵庫にある食材や家庭菜園で取れた旬の野菜等を活用して、その日召し上がりたい料理の提供に努めている。食事形態やアレルギー、嗜好等に留意し、食事が楽しくなるよう職員と同じテーブルで談笑しながら食事を取り、利用者も下ごしらえや下膳を手伝う等、食に対する関心が湧くように工夫している。また、刺身や外食、行事食や郷土料理等、様々な取り組みも行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を記録表に記入している。必要な方は、ミキサー食、刻み食、とろみ食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行い必要に応じ介助を行っている。夜間義歯は義歯ケースで洗浄している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し出来るだけ失敗のないように促している。トイレ動作では出来る事はしてもらえように見守りを行っている。	日中はトイレ誘導を促し、排泄パターンや生活リズムを把握しながら出来る限りオムツに頼らない排泄支援に努めている。失禁者についてはプライバシーや羞恥心に配慮した声かけや支援を行い、排泄チェックや身体状況に応じた排泄コントロールで自立した日常生活が継続出来るように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便間隔を確認し食事内容、水分補給、下剤の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は決めてあるが、体調や気分など考慮し時間や日をずらしている。	個浴で基本的に週3回の入浴を行い、また体調不良時は全身清拭や部分清拭を取り入れる等、身体清潔に努めている。入浴拒否の利用者については声かけや入浴日を変更するなど工夫して入浴出来るよう取り組んでいる。入浴剤の使用やカラーリング等柔軟に対応し入浴を楽しむ事が出来るよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や状況に応じ安心して休んでもらえるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方録で職員が確認しながら、必要時は主治医に相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>個々の出来る事をお願いしたり、レクで得意な歌を歌ってもらう事で張り合いのある生活が送れる様に支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>ADLの低下に伴い外出を希望される方は少なくなっている。希望があれば職員と買い物、自宅へと外出している。必要時はおご家族に協力をもらっている。</p>	<p>身体機能の低下により、外出希望の利用者は減少してきているが、本人の意向を確認しながら散歩や買い物、病院受診、帰宅、外食、初詣、花見など季節行事や日常的な外出の機会を家族と協力して多く作り、外出できるように支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>1名だがお金を持たれ職員と買い物に出かけている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望があれば電話をかけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭に咲いた季節の花を飾り季節を感じてもらったり、掃除を徹底し気持ちよく過ごせるようにしている。	広大な敷地に野菜や果物の木や花が多数植えられ、施設の近くには海岸線を眺望できる散歩コースもある。木材をふんだんに使用したホームのリビングは天上が高く、大きなソファ3台が設置されテレビを見ながら寛げる空間となっている。廊下のスペースも十分で、食堂前にはスロープ付きの大きなウッドデッキがあり、畳部屋は洗濯物を畳んだりコミュニケーションスペースとなっている。随所に七夕飾りや利用者の作品が掲示され、季節感や生活感があり、飼い猫も癒しを与えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有室では気の合う方が隣に座り話をされたり、ゆっくりと自室で過ごされる方もいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所者・ご家族の意見を聞き使い慣れた家具、写真等を置いている。	エアコン、クローゼットはホームで備えられ、ベットや箆笥等は使い慣れた物が持ち込まれている。各居室の入り口のドアは障子で作られて落ち着いた雰囲気である。家族写真や使い慣れた小物を持ち込んで、家族と共にレイアウトする事で自宅同様に居心地よく過ごせる居室づくりの工夫に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関からバリアフリーになっており、テラスへも出ることが出来、一人で出て洗濯物を取り込む事もできる。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない